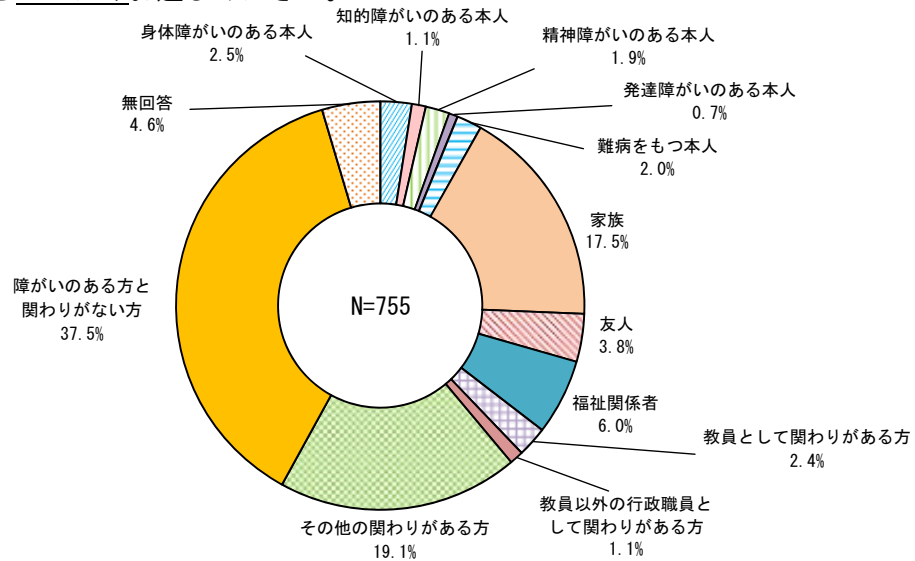


5 障がい者の差別の解消の推進について

問 23 あなたと障がいのある方との関係について教えてください。

次の中から 1つだけお選びください。



【全体】

「障がいのある方と関わりがない方」(37.5%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「その他の関わりがある方」(19.1%)、「家族」(17.5%)の順となっている。

【圏域別】

「障がいのある方と関わりがない方」については、道央広域連携地域(40.0%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(37.5%)となっている。「その他の関わりがある方」については、十勝連携地域(36.4%)が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域(22.6%)となっている。

【人口規模別】

「障がいのある方と関わりがない方」については、札幌市(44.1%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(36.2%)となっている。「その他の関わりがある方」については、札幌市(20.9%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(19.9%)となっている。

【性別】

「障がいのある方と関わりがない方」については、男性39.4%、女性35.8%となっており、「その他の関わりがある方」については、男性21.8%、女性16.9%となっている。

【年代別】

「障がいのある方と関わりがない方」については、18～29歳(49.4%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(39.9%)となっている。「その他の関わりがある方」については、30～39歳(25.6%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(19.7%)となっている。

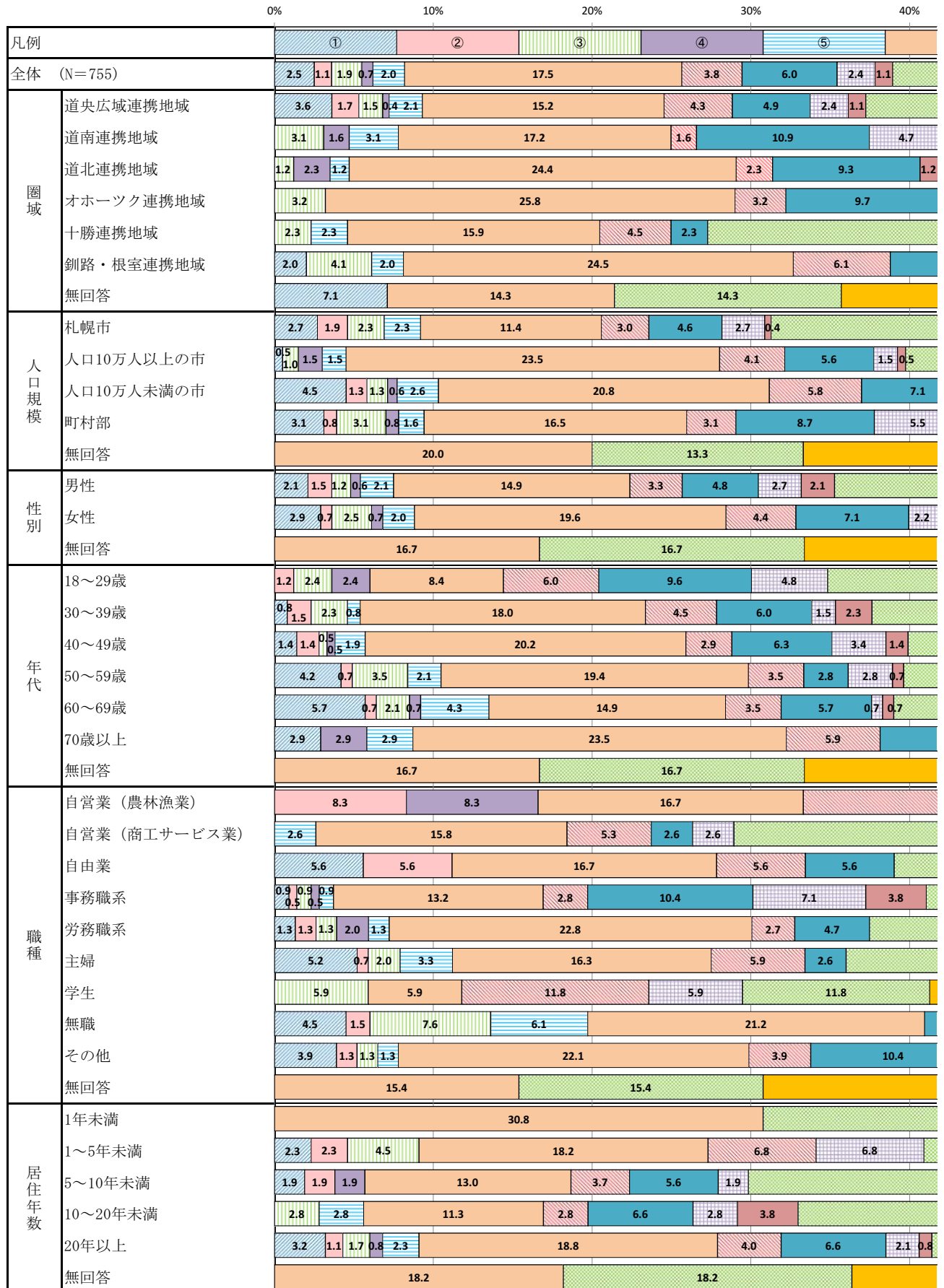
【職種別】

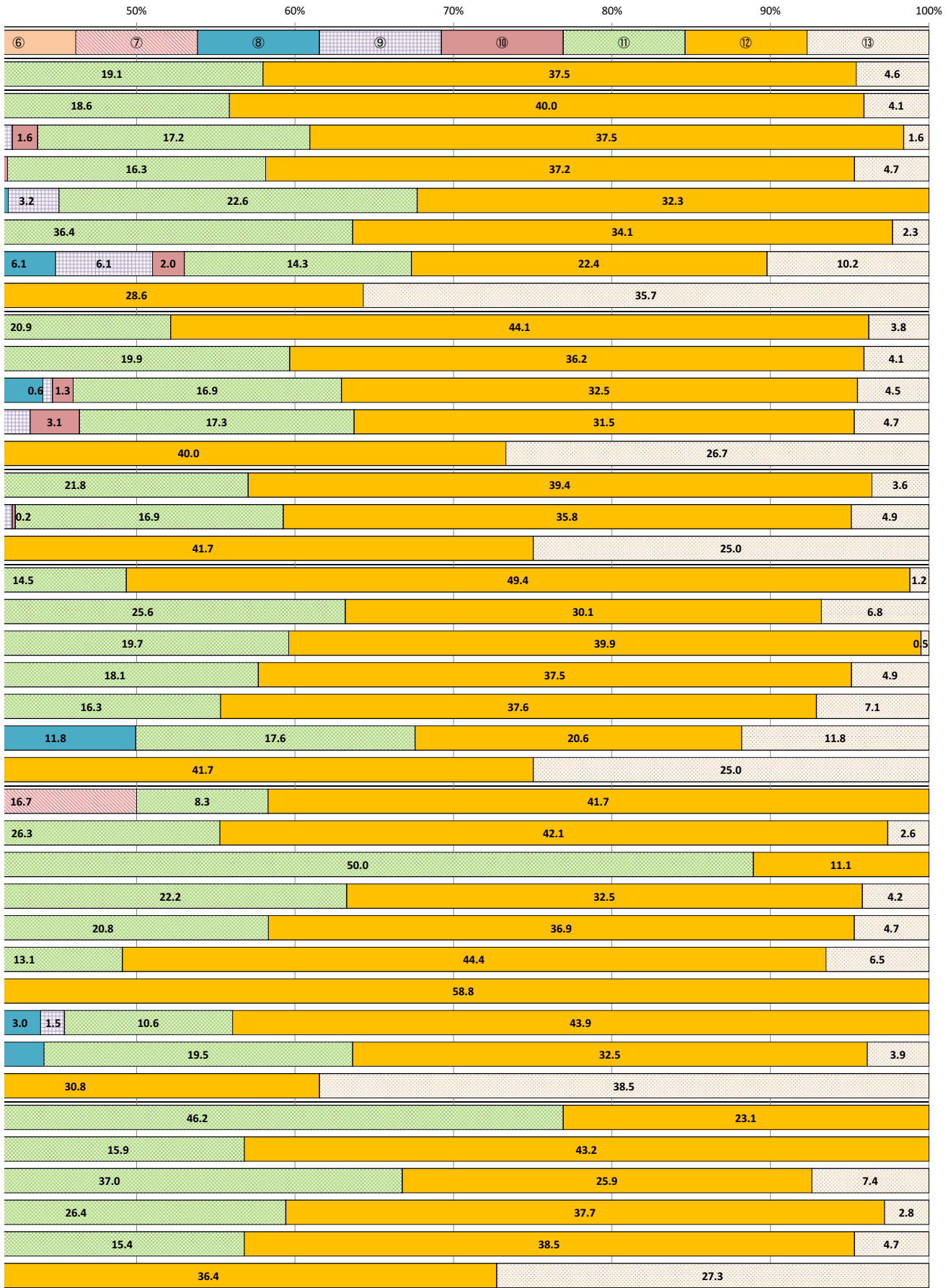
「障がいのある方と関わりがない方」については、学生(58.8%)が最も割合が高く、次いで主婦(44.4%)となっている。「その他の関わりがある方」については、自由業(50.0%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス業)(26.3%)となっている。

【居住年数別】

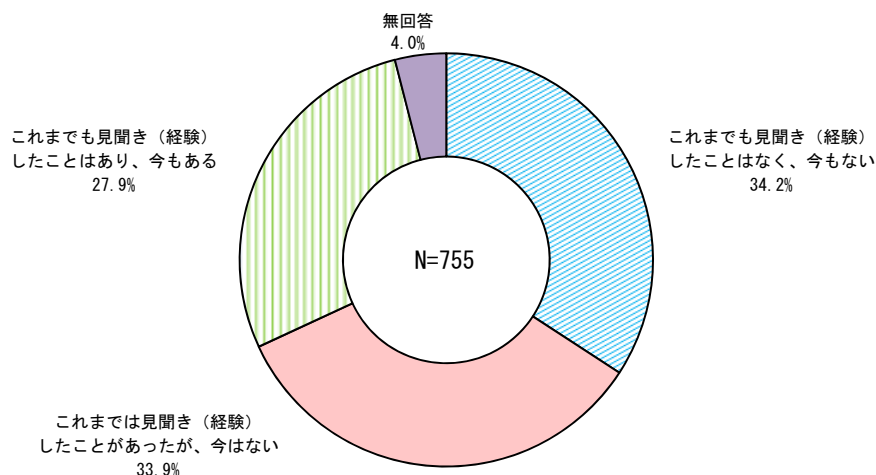
「障がいのある方と関わりがない方」については、1～5年未満(43.2%)が最も割合が高く、次いで20年以上(38.5%)となっている。「その他の関わりがある方」については、1年未満(46.2%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(37.0%)となっている。

①身体障がいのある本人 ②知的障がいのある本人 ③精神障がいのある本人 ④発達障がいのある本人
 ⑤難病をもつ本人 ⑥家族 ⑦友人 ⑧福祉関係者 ⑨教員として関わりがある方
 ⑩教員以外の行政職員として関わりがある方 ⑪その他の関わりがある方 ⑫障がいのある方と関わりがない方 ⑬無回答





問 24 あなたは障がいのある方に対する差別を見聞き（経験）したことはありますか。
次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「これまでも見聞き（経験）したことはなく、今もない」（34.2%）と答えた人の割合が最も高く、次いで「これまでは見聞き（経験）したことがあったが、今はない」（33.9%）、「これまでも見聞き（経験）したことはあり、今もある」（27.9%）の順となっている。

【圏域別】

「これまでも見聞き（経験）したことはなく、今もない」については、釧路・根室連携地域（36.7%）が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域（35.5%）となっている。「これまでは見聞き（経験）したことがあったが、今はない」については、十勝連携地域（54.5%）が最も割合が高く、次いで道南連携地域（37.5%）となっている。

【人口規模別】

「これまでも見聞き（経験）したことはなく、今もない」については、町村部（39.4%）が最も割合が高く、次いで札幌市（35.7%）となっている。「これまでは見聞き（経験）したことがあったが、今はない」については、人口10万人以上の市（36.7%）が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市（34.4%）となっている。

【性別】

「これまでも見聞き（経験）したことはなく、今もない」については、男性34.3%、女性34.6%となっており、「これまでは見聞き（経験）したことがあったが、今はない」については、男性34.0%、女性33.3%となっている。

【年代別】

「これまでも見聞き（経験）したことはなく、今もない」については、70歳以上（44.1%）が最も割合が高く、次いで50～59歳（38.9%）となっている。「これまでは見聞き（経験）したことがあったが、今はない」については、18～29歳（53.0%）が最も割合が高く、次いで60～69歳（35.5%）となっている。

【職種別】

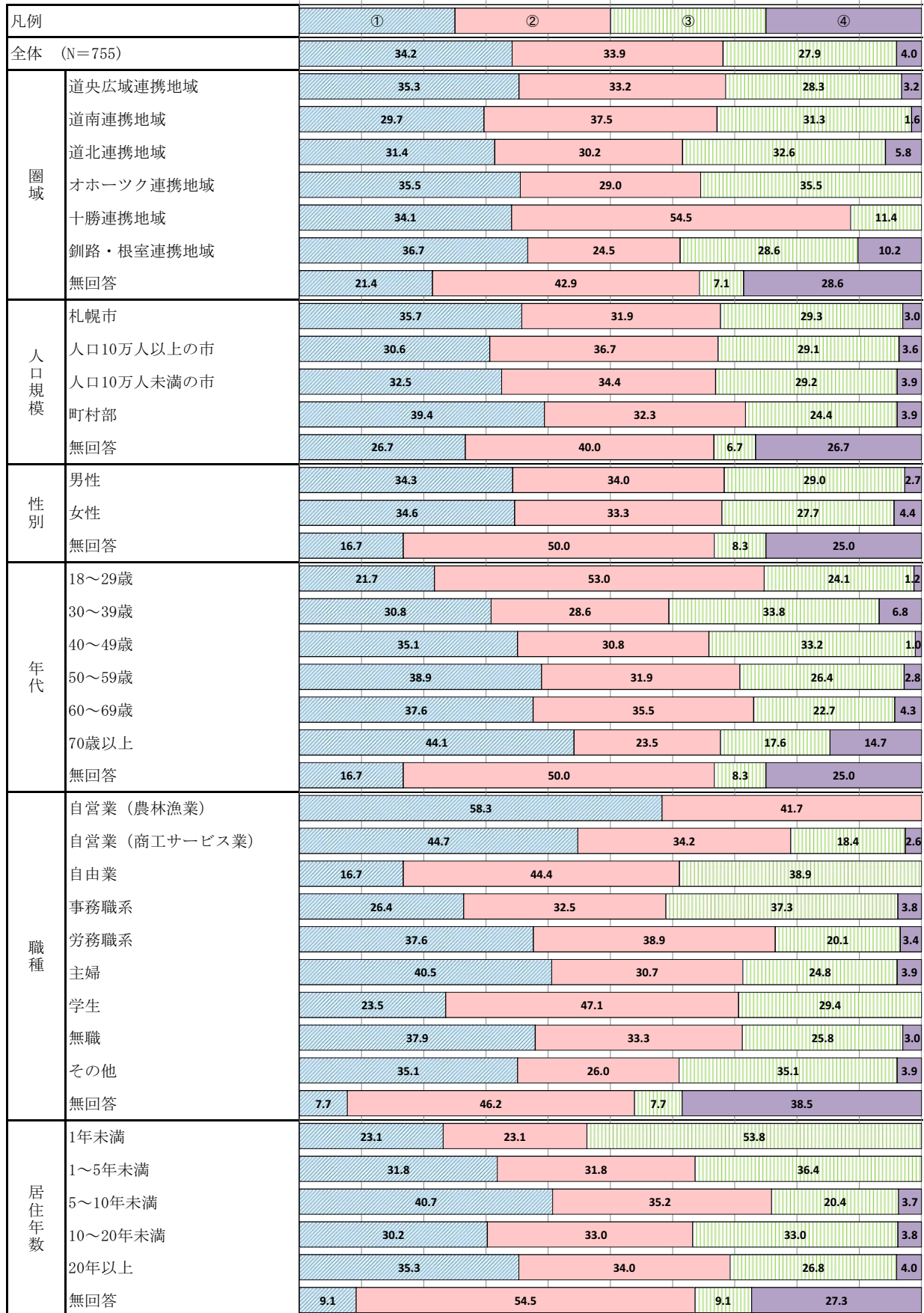
「これまでも見聞き（経験）したことはなく、今もない」については、自営業（農林漁業）（58.3%）が最も割合が高く、次いで自営業（商工サービス業）（44.7%）となっている。「これまでは見聞き（経験）したことがあったが、今はない」については、学生（47.1%）が最も割合が高く、次いで自由業（44.4%）となっている。

【居住年数別】

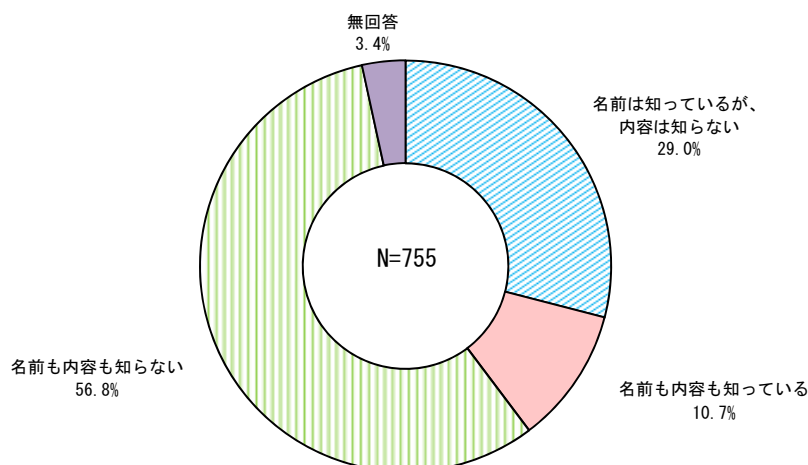
「これまでも見聞き（経験）したことはなく、今もない」については、5～10年未満（40.7%）が最も割合が高く、次いで20年以上（35.5%）となっている。「これまでは見聞き（経験）したことがあったが、今はない」については、5～10年未満（35.2%）が最も割合が高く、次いで20年以上（34.0%）となっている。

- ① これまでも見聞き（経験）したことはなく、今もない
 ② これまでは見聞き（経験）したことがあったが、今はない
 ③ これまでも見聞き（経験）したことはあり、今もある
 ④ 無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問 25 平成28年4月1日に施行された障害者差別解消法を知っていますか。
次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「名前も内容も知らない」(56.8%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「名前を知っているが、内容は知らない」(29.0%)、「名前も内容も知っている」(10.7%)の順となっている。

【圏域別】

「名前も内容も知らない」については、オホーツク連携地域(67.7%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(58.7%)となっている。「名前を知っているが、内容は知らない」については、十勝連携地域(36.4%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(32.8%)となっている。

【人口規模別】

「名前も内容も知らない」については、札幌市(62.0%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(60.4%)となっている。「名前を知っているが、内容は知らない」については、町村部(32.3%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(31.1%)となっている。

【性別】

「名前も内容も知らない」については、男性56.1%、女性58.1%となっており、「名前を知っているが、内容は知らない」については、男性29.6%、女性28.4%となっている。

【年代別】

「名前も内容も知らない」については、18～29歳(66.3%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(62.4%)となっている。「名前を知っているが、内容は知らない」については、70歳以上(47.1%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(38.3%)となっている。

【職種別】

「名前も内容も知らない」については、自営業(農林漁業)(75.0%)が最も割合が高く、次いで学生(70.6%)となっている。「名前を知っているが、内容は知らない」については、無職(48.5%)が最も割合が高く、次いで自由業(33.3%)となっている。

【居住年数別】

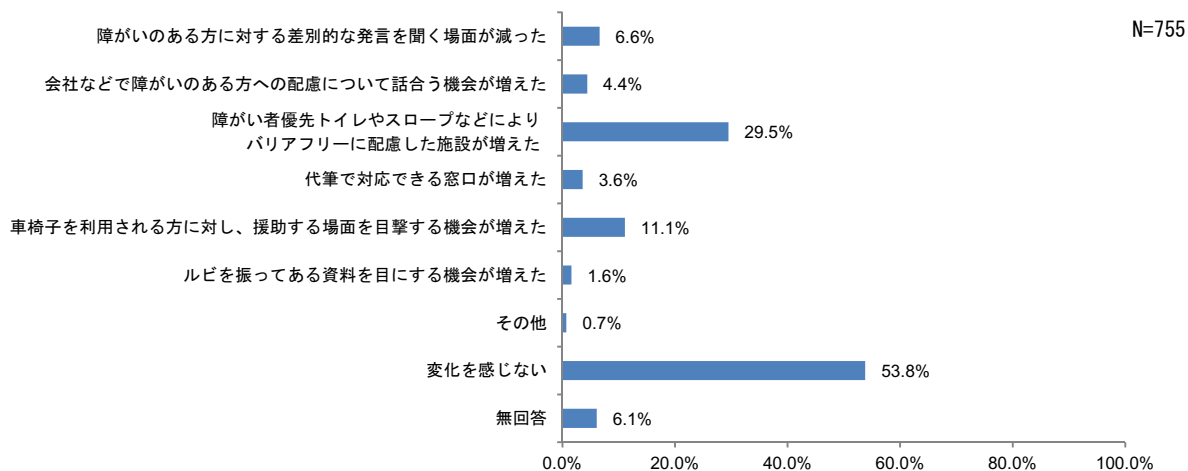
「名前も内容も知らない」については、1年未満(69.2%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(68.5%)となっている。「名前を知っているが、内容は知らない」については、20年以上(31.5%)が最も割合が高く、次いで1年未満(30.8%)となっている。

①名前は知っているが、内容は知らない ②名前も内容も知っている
 ③名前も内容も知らない ④無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

凡例		①	②	③	④
全体 (N=755)		29.0	10.7	56.8	3.4
圏域	道央広域連携地域	29.1	9.6	58.7	2.6
	道南連携地域	32.8	15.6	50.0	1.6
	道北連携地域	25.6	11.6	58.1	4.7
	オホーツク連携地域	19.4	12.9	67.7	
	十勝連携地域	36.4	9.1	54.5	
	釧路・根室連携地域	28.6	14.3	46.9	10.2
	無回答	28.6	7.1	35.7	28.6
人口規模	札幌市	25.9	9.5	62.0	2.7
	人口10万人以上の市	31.1	12.2	54.1	2.6
	人口10万人未満の市	28.6	7.8	60.4	3.2
	町村部	32.3	15.0	48.8	3.9
	無回答	33.3	6.7	33.3	26.7
性別	男性	29.6	12.2	56.1	2.1
	女性	28.4	9.6	58.1	3.9
	無回答	33.3	8.3	33.3	25.0
年代	18～29歳	27.7	4.8	66.3	1.2
	30～39歳	22.6	8.3	62.4	6.8
	40～49歳	24.0	13.0	62.0	1.0
	50～59歳	29.2	11.1	57.6	2.1
	60～69歳	38.3	12.1	46.8	2.8
	70歳以上	47.1	14.7	26.5	11.8
	無回答	33.3	8.3	33.3	25.0
職種	自営業（農林漁業）	25.0		75.0	
	自営業（商工サービス業）	28.9	13.2	55.3	2.6
	自由業	33.3	16.7	50.0	
	事務職系	31.1	15.1	50.9	2.8
	労務職系	25.5	9.4	61.7	3.4
	主婦	24.8	6.5	65.4	3.3
	学生	17.6	11.8	70.6	
	無職	48.5	6.1	45.5	
	その他	24.7	13.0	57.1	5.2
	無回答	23.1	7.7	30.8	38.5
居住年数	1年未満	30.8		69.2	
	1～5年未満	29.5	9.1	61.4	
	5～10年未満	14.8	13.0	68.5	3.7
	10～20年未満	23.6	11.3	63.2	1.9
	20年以上	31.5	10.8	54.1	3.6
	無回答	27.3	9.1	36.4	27.3

問 26 障害者差別解消法が施行されて、あなたの生活や仕事に何か変化を感じますか。
次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「変化を感じない」(58.3%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「障がい者優先トイレやスロープなどによりバリアフリーに配慮した施設が増えた」(29.5%)、「車椅子を利用される方に対し、援助する場面を目撃する機会が増えた」(11.1%)の順となっている。

【圏域別】

「変化を感じない」については、オホーツク連携地域(74.2%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(56.8%)となっている。「障がい者優先トイレやスロープなどによりバリアフリーに配慮した施設が増えた」については、釧路・根室連携地域(42.9%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(40.6%)となっている。

【人口規模別】

「変化を感じない」については、札幌市(58.2%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(55.2%)となっている。「障がい者優先トイレやスロープなどによりバリアフリーに配慮した施設が増えた」については、人口10万人以上の市(35.7%)が最も割合が高く、次いで町村部(33.1%)となっている。

【性別】

「変化を感じない」については、男性51.6%、女性55.9%となっており、「障がい者優先トイレやスロープなどによりバリアフリーに配慮した施設が増えた」については、男性30.4%、女性29.2%となっている。

【年代別】

「変化を感じない」については、40～49歳(60.1%)が最も割合が高く、次いで18～29歳(59.0%)となっている。「障がい者優先トイレやスロープなどによりバリアフリーに配慮した施設が増えた」については、70歳以上(41.2%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(34.8%)となっている。

【職種別】

「変化を感じない」については、自由業(77.8%)が最も割合が高く、次いで学生(58.8%)となっている。「障がい者優先トイレやスロープなどによりバリアフリーに配慮した施設が増えた」については、自営業(農林漁業)(41.7%)が最も割合が高く、次いで自営業(商工サービス業)(36.8%)となっている。

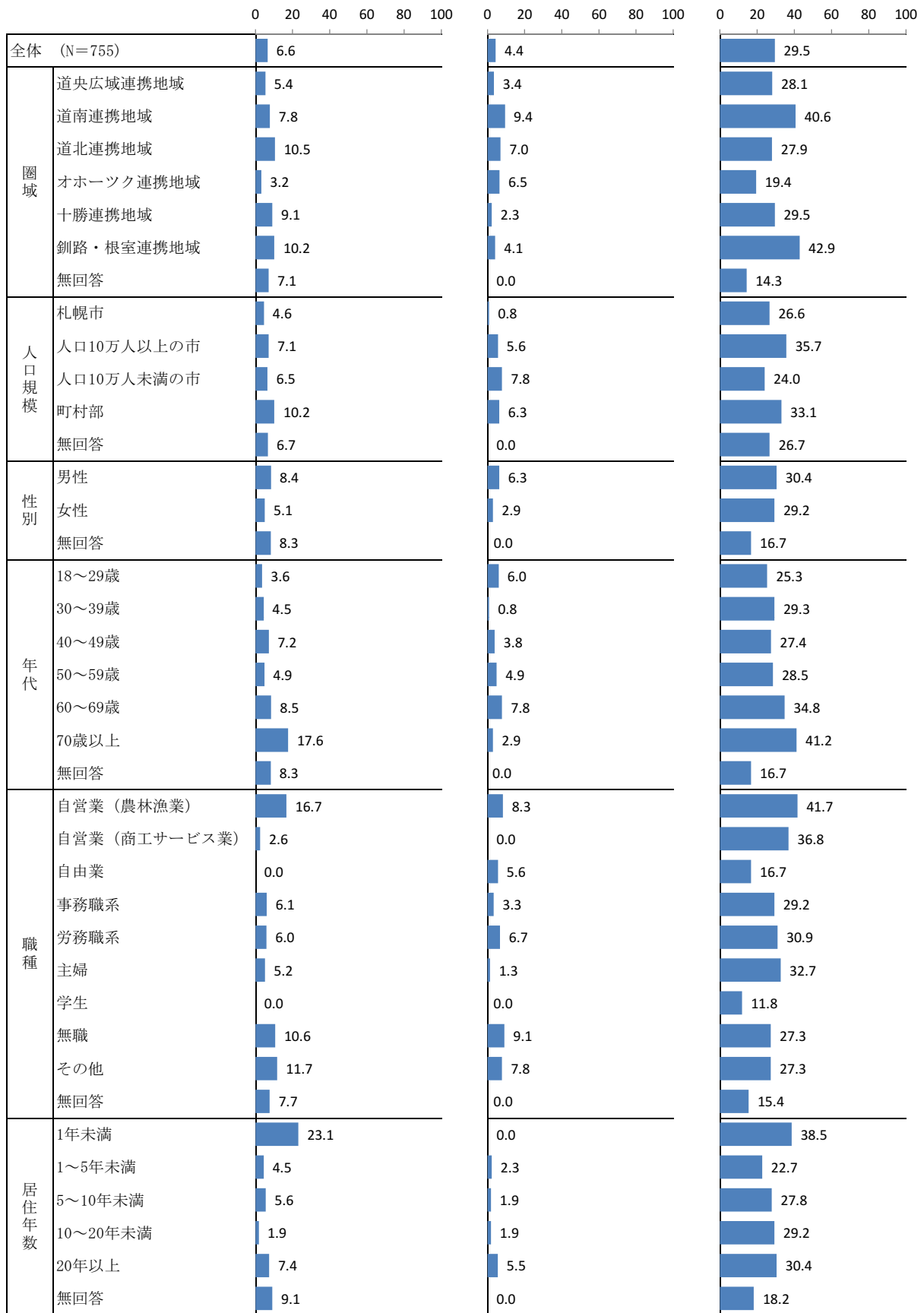
【居住年数別】

「変化を感じない」については、5～10年未満(63.0%)が最も割合が高く、次いで1年未満(61.5%)となっている。「障がい者優先トイレやスロープなどによりバリアフリーに配慮した施設が増えた」については、1年未満(38.5%)が最も割合が高く、次いで20年以上(30.4%)となっている。

障がいのある方に対する差別的な発言を聞く場面が減った

会社などで障がいのある方への配慮について話合う機会が増えた

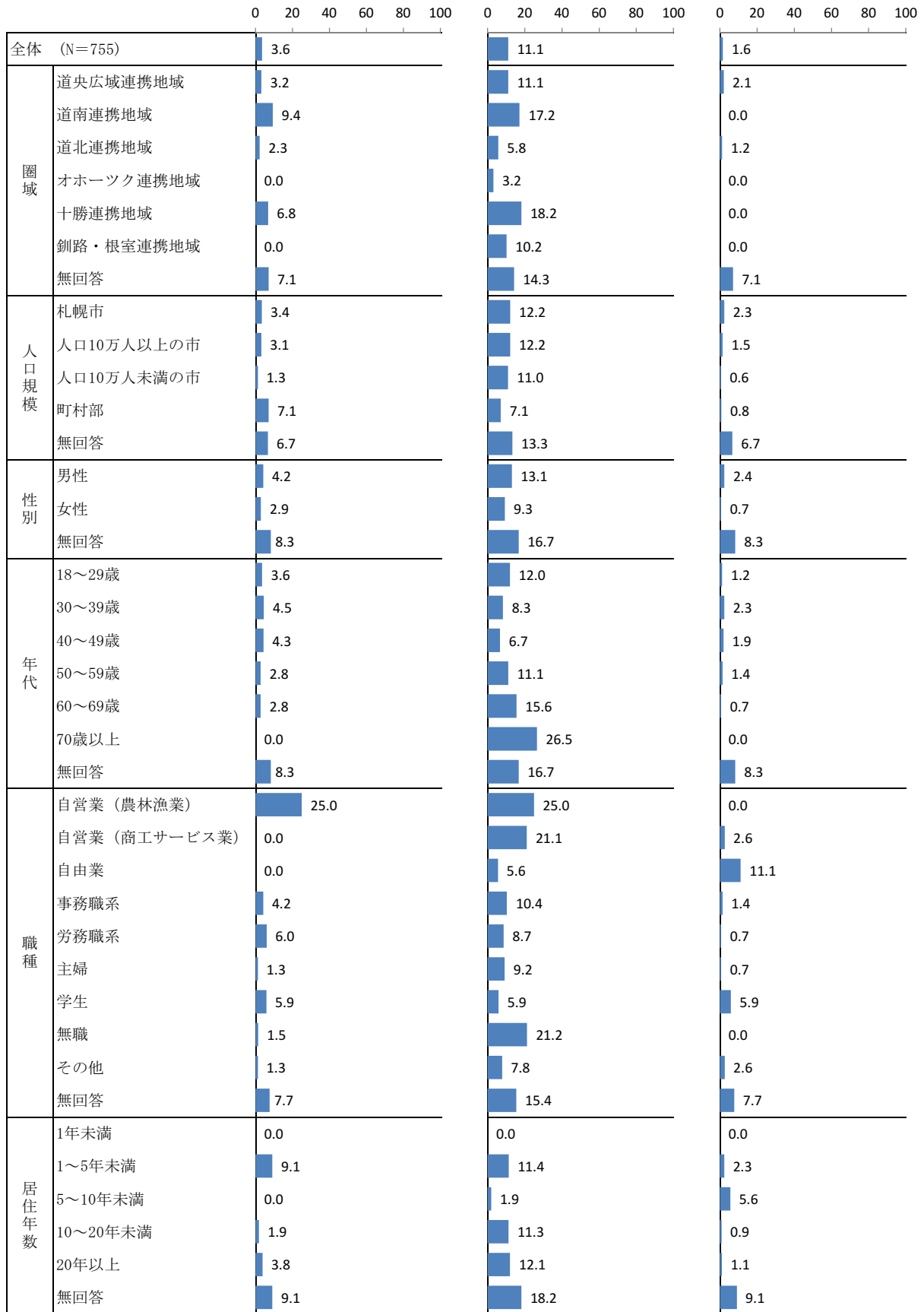
障がい者優先トイレやスロープなどによりバリアフリーに配慮した施設が増えた

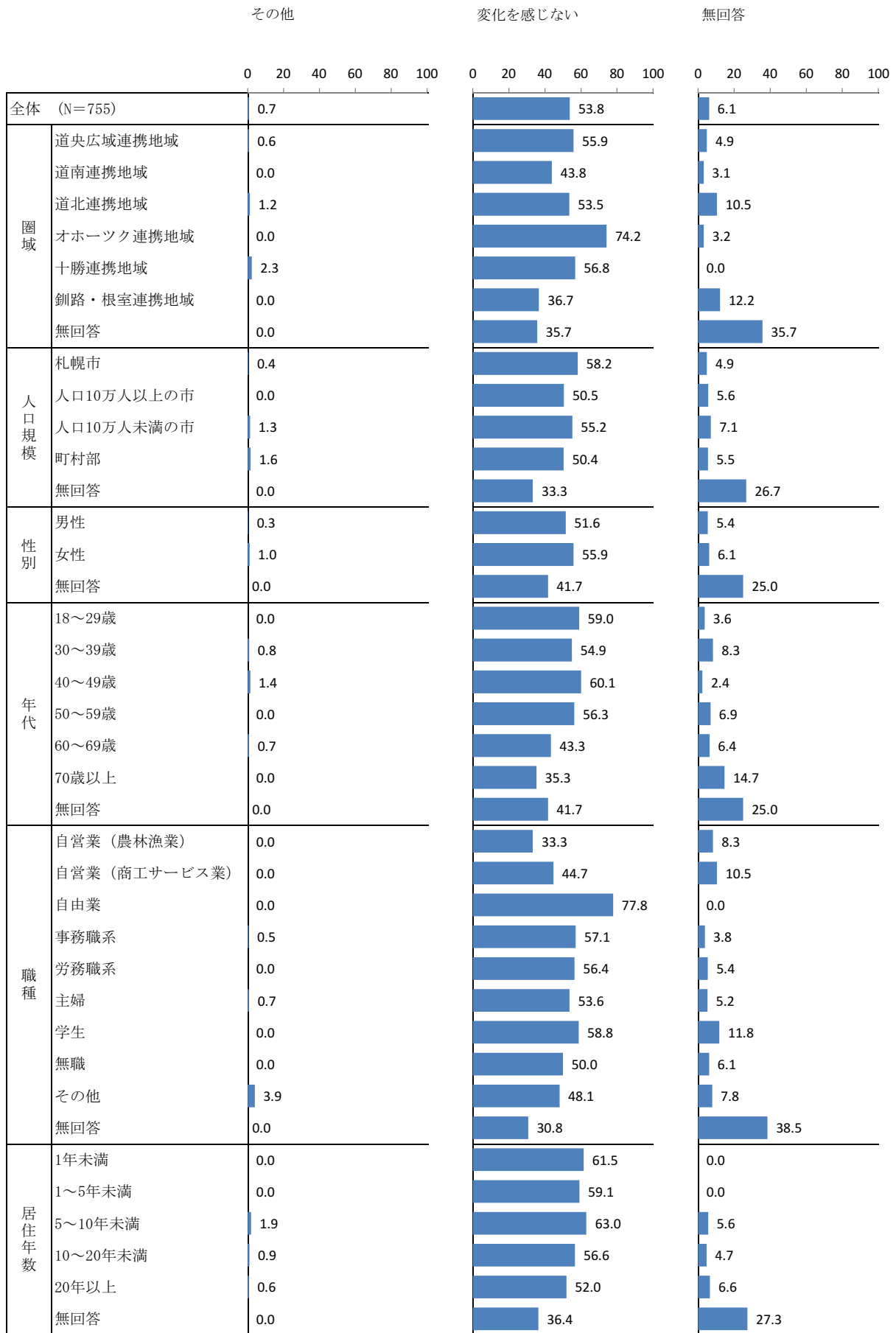


代筆で対応できる窓口が増えた

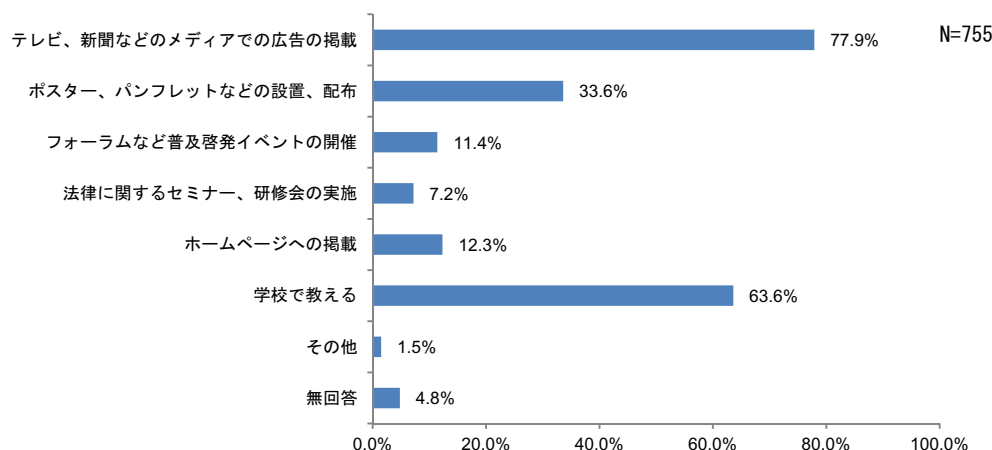
車椅子を利用される方に対し、
援助する場面を目撃する機会が
増えた

ルビを振ってある資料を目に
する機会が増えた





問 27 今後、この法律をより多くの人に知ってもらうために、どのような取組があると良いと思いますか。次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「テレビ、新聞などのメディアでの広告の掲載」(77.9%)と答えた人の割合が最も高く、次いで「学校で教える」(63.6%)、「ポスター、パンフレットなどの設置、配布」(33.6%)の順となっている。

【圏域別】

「テレビ、新聞などのメディアでの広告の掲載」については、オホーツク連携地域(87.1%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(81.8%)となっている。「学校で教える」については、オホーツク連携地域(74.2%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(66.3%)となっている。

【人口規模別】

「テレビ、新聞などのメディアでの広告の掲載」については、札幌市(79.5%)が最も割合が高く、次いで町村部(78.0%)となっている。「学校で教える」については、札幌市(65.0%)が最も割合が高く、次いで町村部(63.8%)となっている。

【性別】

「テレビ、新聞などのメディアでの広告の掲載」については、男性77.3%、女性78.4%となっており、「学校で教える」については、男性61.2%、女性65.7%となっている。

【年代別】

「テレビ、新聞などのメディアでの広告の掲載」については、40～49歳(82.7%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(80.1%)となっている。「学校で教える」については、40～49歳(66.8%)が最も割合が高く、次いで30～39歳(66.2%)となっている。

【職種別】

「テレビ、新聞などのメディアでの広告の掲載」については、自営業(商工サービス業)(84.2%)が最も割合が高く、次いで主婦(81.7%)となっている。「学校で教える」については、学生(76.5%)が最も割合が高く、次いで自営業(農林漁業)(75.0%)となっている。

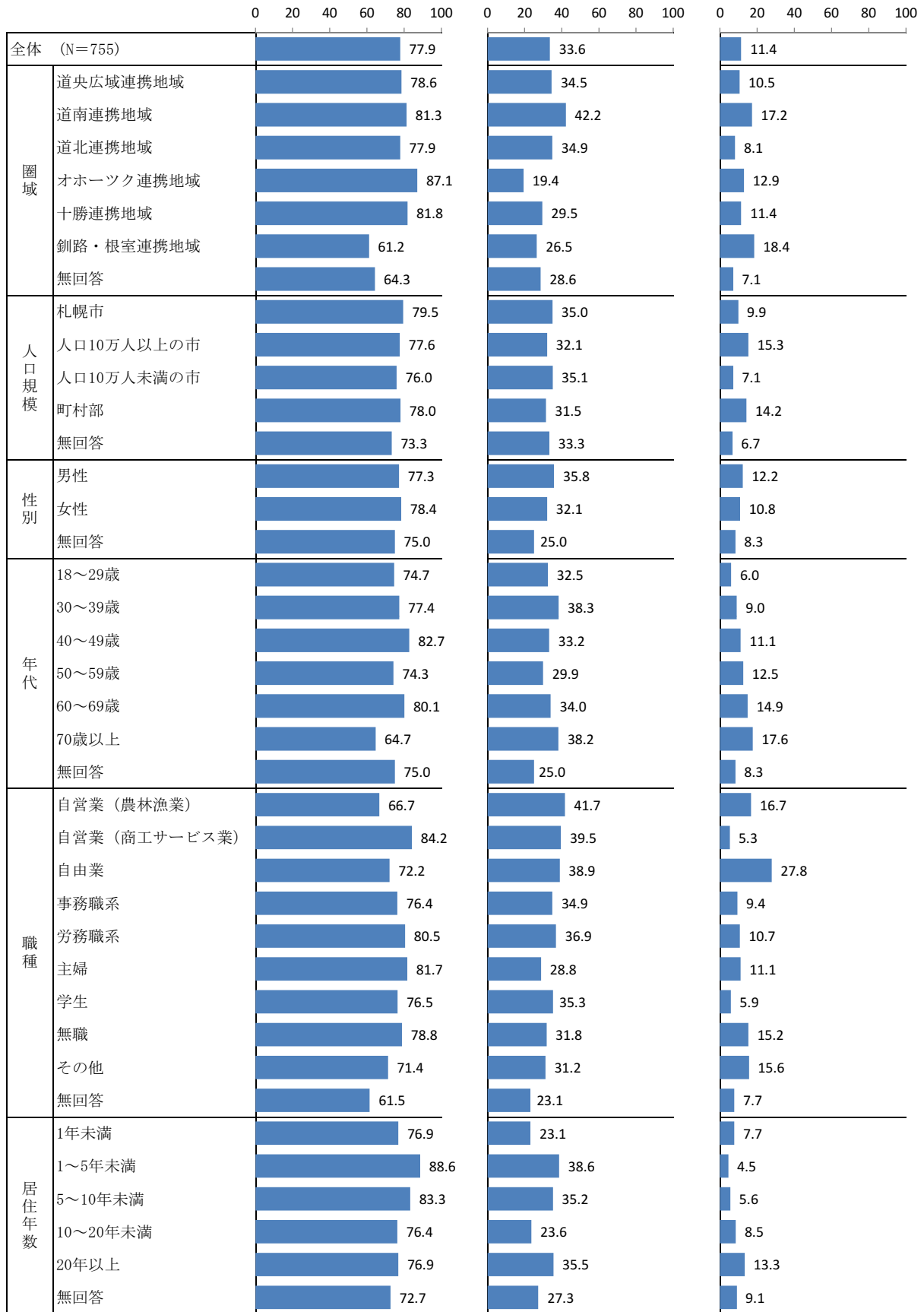
【居住年数別】

「テレビ、新聞などのメディアでの広告の掲載」については、1～5年未満(88.6%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(83.3%)となっている。「学校で教える」については、10～20年未満(67.0%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(64.8%)となっている。

テレビ、新聞などのメディアでの広告の掲載

ポスター、パンフレットなどの設置、配布

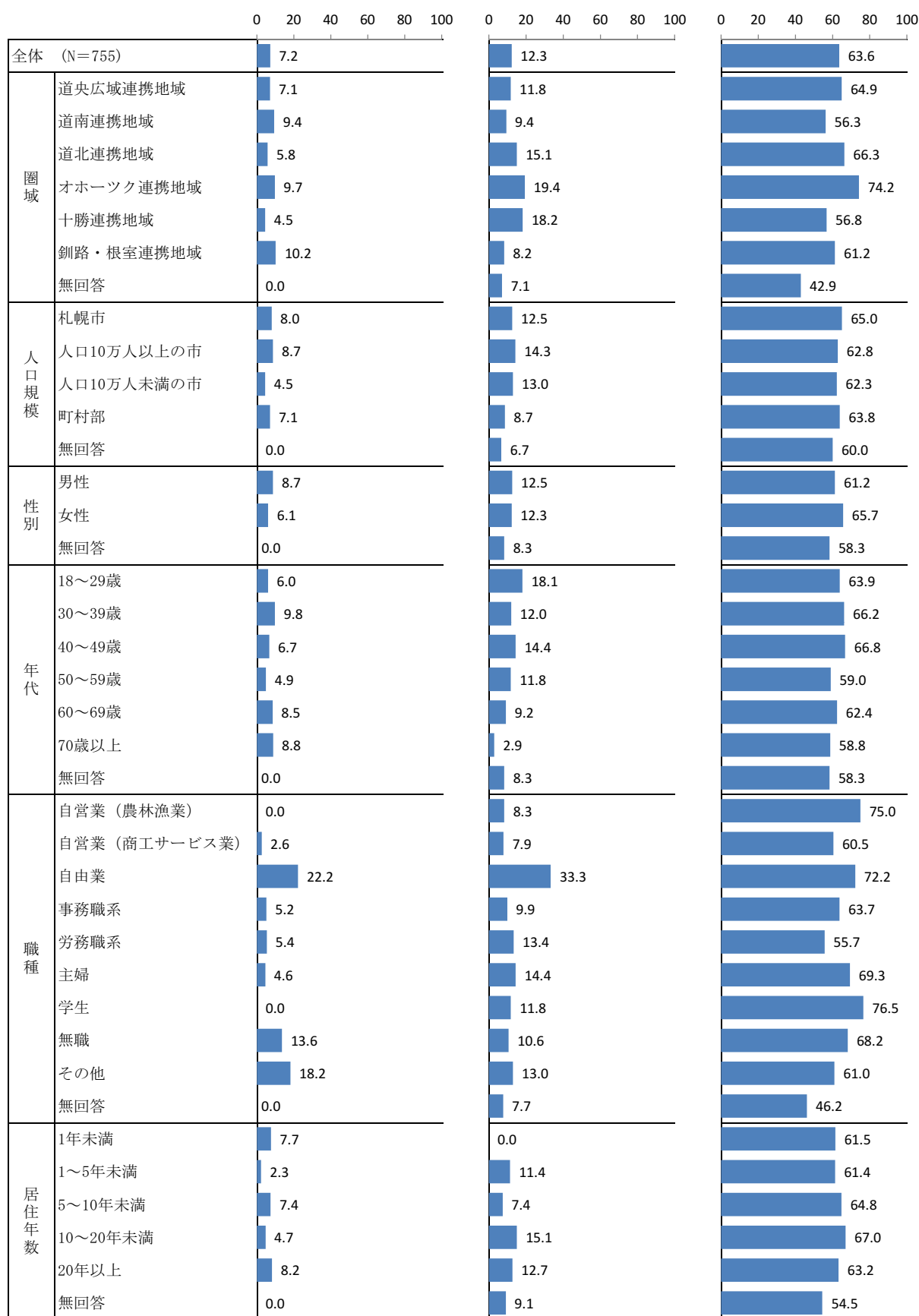
フォーラムなど普及啓発イベントの開催

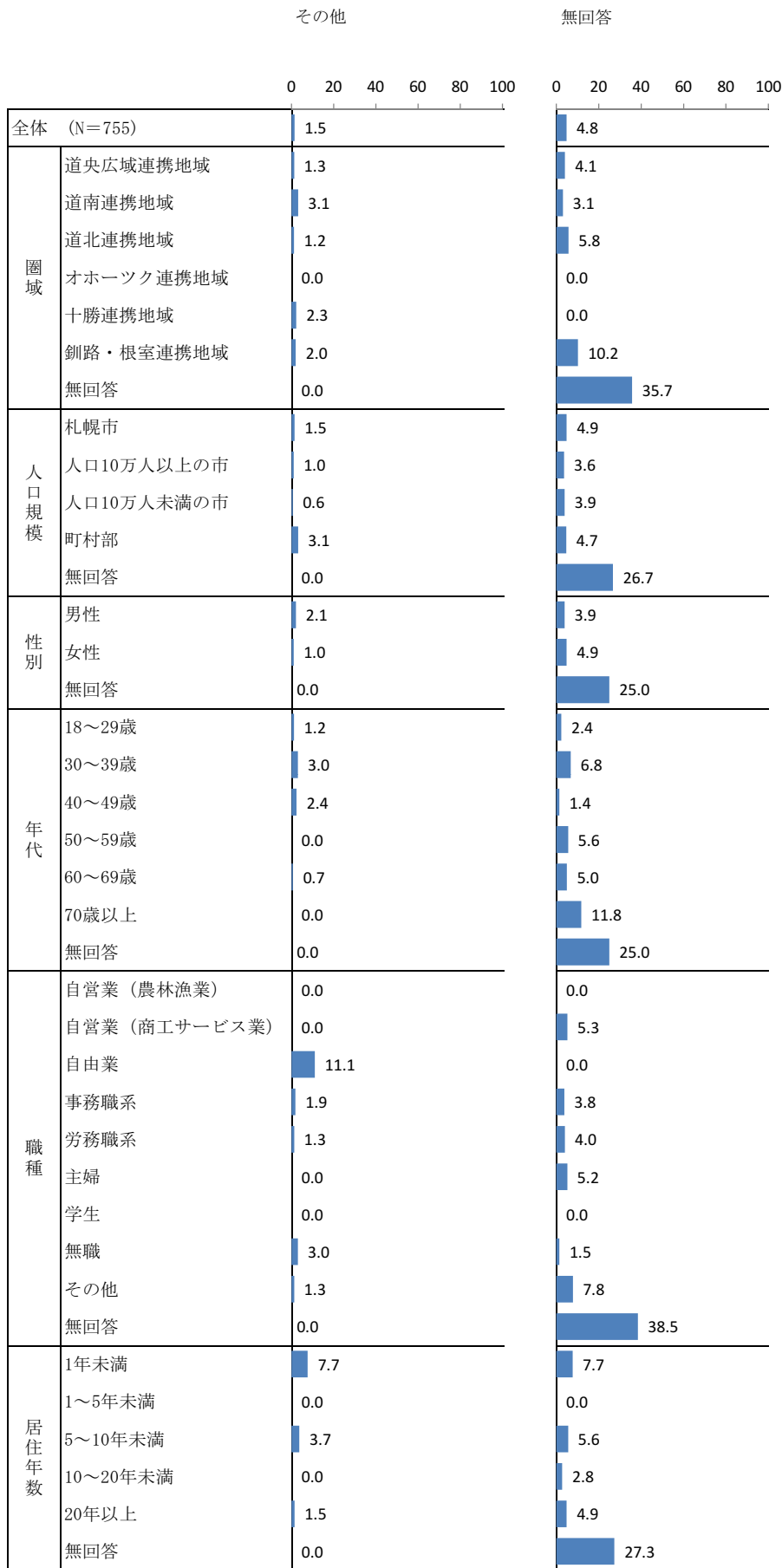


法律に関するセミナー、研修会
の実施

ホームページへの掲載

学校で教える





■「障がい者の差別の解消の推進について」の調査を終えて

障がい者に対する差別の見聞き（経験）については、3割近くの方が今もなお差別を見聞き（経験）していると回答された。

そうした中、平成28年4月1日に施行された障がい者の差別の解消を推進する法律である障害者差別解消法（以下、「法」という。）の認知度については、半数以上の方が「名前も内容も知らない」、3割近くの方が「名前は知っているが内容は知らない」と回答され、施行後1年以上が経過したが認知度はまだ低いと言える。

法の施行後の変化については、5割以上の方が「変化を感じない」と回答され、また、変化を感じた内容については、障がい者に配慮した施設の増加といったハード面での整備に関する変化と回答された方が3割近くを占めている。

法の周知に有効な取組については、「テレビ、新聞などのメディアでの広告の掲載」（77.9%）が最も多く、次いで「学校で教える」（63.6%）となっている。

今後は、今回の調査結果を参考に、法の理解の促進など、障がい者の差別の解消に取り組んでいく。

（保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課）